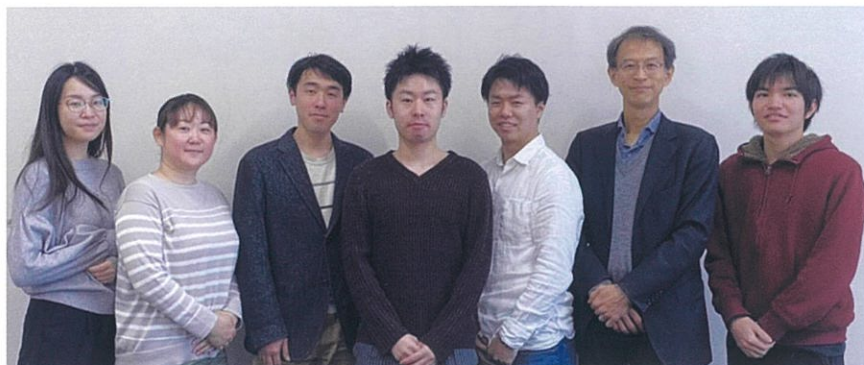




UT-OAK 南三陸支援団は、国際協力学専攻の学生有志が2011年4月に設立した学生ボランティア団体です。東日本大震災により甚大な被害を受けた宮城県南三陸町を活動拠点として、これまで10年間活動を継続していま



2020年度のUT-OAK執行部と顧問の本田利器先生

震災直後は毎週末の炊き出しや物資配布を行っていましたが、現在の主な活動は、2011年夏から始まった小中学生を対象とする「寺子屋」です。

毎年、現地の夏休みと冬休みに当たる時期にそれぞれ1週間程度、町内の公民館や集会所で開催しています。2012年には社会活動分野で東京大学総長賞をいただきました。

(当時の顧問は名誉教授の山路永司先生)

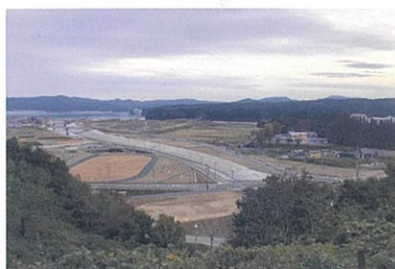
ON CAMPUS × OFF CAMPUS

学生の活動を紹介・応援する在学生コラム

寺子屋では主に、小中学生の宿題のお手伝いや受験生の指導を行います。写真の様子から分かるように、勉強時間中の子どもたちはとても集中して勉強し、分からないことをボランティアの学生に質問します。そして、勉強時間はとても静かですが、休憩時間には同じ環境が鬼ごっこの会場に早変わり



寺子屋の様子



南三陸町の風景(2019年秋撮影)

します。学校や塾ではないのですが、このように勉強と遊びのけじめがしっかりしている点がUT-OAKの寺子屋の特徴です。

また、寺子屋では学校の宿題を進めるだけでなく、毎回異なるテーマの理科実験も実施しています。前回現地で行った寺子屋では、pHによって色を変えるバタフライピーという紅茶を用いて、身の回りの物質の液性を調べる実験を行いました。この理科実験は、メンバーが1から全てを企画します。テーマを考え、予備実験をして、しっかりと安全性を確かめた上で行うため、実験準備は大変です。しかし、寺子屋に参加する子どもたちが実験を楽しみにしてくれていて、「今回はどんな実験するの?」と聞いてきたり、実際に楽し



子どもたちに大好評の理科実験(2019年冬)

んで実験をしている姿を見ると、企画して本当によかったなと思います。

毎年8月と12月に行っている寺子屋活動は、1カ月ほど前からボランティア募集メールを新領域創成科学研究科の学生に送っています。興味のある方がいらっしやいましたら、ぜひ一緒に南三陸町に行きませんか。

代表 岩崎 友優 (物質系専攻 修士課程2年)

被災地を直接見てみたいというふとした思いから、私はこの活動に関わり始めました。「被災地の小学生」というイメージが先行しがちですが、実際に話してみると、子どもたちにとっては南三陸が当たり前の環境なのです。イメージに惑わされることなく普通に接することが大切ということに気づかされました。



～研究科が進める「学生創成プロジェクト」で活動資金を一部支援しています～